

つきたい力

主体的に学びに向かう力

- ・問い、学習課題の設定
- ・課題解決のための学習方法の選択

取組みの概要・ポイント

説明的文章における「問いづくり」「学習方法の選択」に向けた系統的な学び

具体的な取組みの内容 子どもたちによる「問いづくり」に向けた学習の流れ

【問いづくり（学習課題づくり）】

- 学習の流れ・・・初発の感想を書く→共有する→作戦会議をする→選択肢の中から選ぶ
- 見方・考え方を働かせて(学びのアイテム・武器・攻略本) 学習を進め、学びをふりかえる
合言葉は、「どうしたい?」(考える内容)、「どうしたらいいと思う?」(考える手段)

ステップ1

初発の感想

- 作品と出会ってすぐの感想を書き表すことで、それぞれの読みを明らかにしていく。
〈子どもの感想をそのまま書く〉 ・感動、共感 ・疑問、気づき、既習との比較 など
〈仕掛けを用いて書く〉 ・一文要約 ・レビュー(作品評価) など

ステップ2

感想の共有

- 感想を共有することで、大きな内容の確認(ざっくり読む)を行う。
- 共有を行っていくことで、作品のもつ特性に迫る。
- ※内容理解が不十分で作品のもつ特性を受け止められていなければ、作品や書き手の相対化につなぐことは難しくなる。

ステップ3

問いをしぼる

- 学級としての学習課題づくり・学習の目的の耕し
- 単元の目標、育成させたい資質・能力に導くこと。
- ※「子どもたちが考えたことだから何でもいい」ではなく、学習指導要領の目標にそのような学習課題が設定できるように、授業者のコーチングが重要になってくる。

ステップ4

言語活動の
設定

- 「読み手になって書く」「書き手になって書く」を子どもたちが選択し、それぞれの表現方法で学習していく。
- ただし、学習項目や教材の特性との兼ね合いも大切である。

発達段階によっても取り組める内容が変わってくるため、以下のような目標としている。

- | | | |
|------|------------|-------------------------|
| ○低学年 | 学習の動機づけ | 疑問、「わからない」の許容→交流からの広がりへ |
| ○中学年 | 筆者を読む視点づくり | 個人の疑問から、作品の中心となる課題へ |
| ○高学年 | 学習課題づくり | 問い(課題)づくりから、方法の作戦会議へ |

ことばのちからを高めるために

- ☆ノートの展覧会
- ☆ことばのちから活用シート
- ☆よむYOMUワークシート



取組みを通しての子どもの変容

- ・アンケート項目「国語の授業が好きだ」の肯定的回答が上昇した。(5年生) 7月: 64%→12月: 69% (6年生) 7月: 70%→12月: 72%
- ・協働的な学習を多く取り入れているため、対話しながら学習を進める姿が増えている。
- ・「わからない」の許容により、学習に前向きな児童が増えている。

